

1 災害のリスクを確認しましょう

平時に確認さし！

町ハザードマップ



台風や豪雨などの災害に備えるために

ハザードマップで災害のリスクを確認し、
自分や家族の避難行動について考えておきましょう

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップ(※1)で自分の家がどこにあるか確認し、印を付けてみましょう。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
②浸水する深さよりも高いところにいる。
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は、自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
※土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は、自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は、避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう。)

警戒レベル3が出たら、指定緊急避難場所に避難しましょう。

警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。(日頃から相談しておきましょう。)

警戒レベル4が出たら、指定緊急避難場所に避難しましょう。

※1 ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

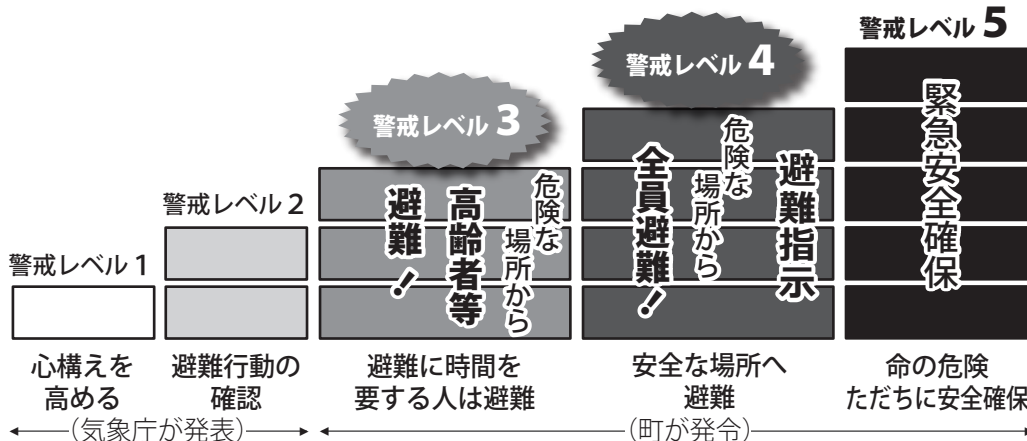
警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。

避難情報のポイント



「避難」とは「難」を「避」けること、『安全を確保すること』です。安全な場所にいる人は避難場所に行く必要はありません。

なお、災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、「警戒レベル5」は必ず発令される情報ではありません。「警戒レベル4」までに必ず避難しましょう。



2 避難時の行動を考えましょう～マイ・タイムラインの作成を～

「マイ・タイムライン」とは、台風の接近などによる風水害が起こる可能性があるときに、自分や家族がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、とりまとめるものです。一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」「誰が」「何をするのか」あらかじめ時系列で整理しておくことでスムーズな防災行動を実施することにつながります。



自宅や周辺の リスクを確認する

普段から自分の生活している地域の、どこに、どんな大雨による災害リスクがあるかをハザードマップで必ず確認しておきましょう。



避難場所は学校や公民館などの指定緊急避難場所ではありません。安全な親戚や知人宅、ホテル・旅館などに避難することも考えましょう。

避難先を具体的に考える

家族構成をふまえて、 行動のタイミングを調整する



「警戒レベル3」は高齢者だけの情報ではありません。必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。

- ◆坂城町防災WEB
- ◆信州防災アプリ（長野県）から、気象情報や交通情報などが確認できます。

3日前

情報収集



台風・豪雨時に町が発令する避難情報等は、同報系防災行政無線の屋外スピーカーや戸別受信機から放送するとともに、「町ホームページ」「坂城町防災WEB」「上田ケーブルビジョン」文字放送「緊急速報メール」でお知らせします。また、警報級以上の防災気象情報については、気象庁からの発表に伴い、「Jアラート」から自動的に同報系防災行政無線を通じてお知らせします。（情報の危険度によってお知らせの方法が変わります。）

情報収集

氾濫注意情報

避難の準備

氾濫警戒情報



避難時にすぐ取り出せるよう「非常時持ち出し品」を準備しましょう。また、家庭備蓄は、大規模な災害に備えて、「1週間以上」分が望ましいとされています。マスク、消毒液、常備薬、モバイルバッテリーなど、各自が必要なものを準備してください。

警戒レベル3

高齢者等避難

氾濫危険情報

警戒レベル4

避難指示

避難の実施



氾濫発生

氾濫発生情報

（参考）
国土交通省
関東地方整備局